

デンマークの一般事情

お話：澤渡夏代 Brandt

レポート：黒田容美

★概要

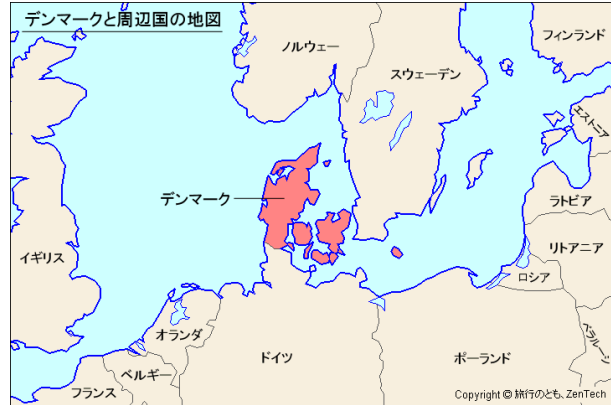
デンマーク(Danmark)は、北欧諸国の一つで、バルト海と北海に挟まれたユトランド半島と、その周辺の大小 500 近い島々からなる立憲君主制国家です。

北は海を挟んでスカンディナヴィア諸国、南は陸上でドイツと接しています。北欧諸国の中で最も南に位置しており、沿岸を流れるメキシコ湾流のおかげで、緯度のわりには穏やかな気候で、四季も比較的はつきりと分かれているそうです。

国土は最高地点でも海拔わずか 173m しかなく、「パンケーキのようになだらかである」と表現されることもあります。そのような国土や気候は、北海道にとってもよく似ている、と感じました。

日本との時差は、-7 時間（夏時間）、日本のほうが 7 時間進んでいます。（冬時間は、-8 時間）日本とデンマークの直線距離は約 8,779 km、成田空港からコペンハーゲン空港への直行便で、約 11 時間 25 分かかります。

日本の面積は、デンマークの約 8 倍、人口は 25 倍と言われ、人口密度も約 2.5 倍となっています。山の多い日本からデンマークを訪れたとき、広々とした印象を受けるのはこのせいかもしれません。



<日本とデンマークの比較>

	デンマーク	日本
公用語	デンマーク語	日本語
首都	コペンハーゲン	東京都
面積	43,094 km ²	377,962 km ²
人口	562 万 7235 人 (2014 年)	1 億 2,688 万人 (2015 年)
人口密度	126 人 / km ²	337 人 / km ²
政府	女王: マルグレーデ 2 世 首相: ラース・ロツケ・ラスムセン	天皇: 今上天皇 内閣総理大臣: 安倍晋三
通貨	デンマーク・クローネ	円

★デンマークの人口構成について

総人口に占める 15 歳以下の人口（割合）は、日本よりデンマークのほうが多くなっています。この 5 年間の推移は両国とも変化がみられませんが、60 歳以上の人口では、デンマークは 1% 増ですが、日本は 3% も増えており、日本の急激な高齢化が感じられます。

15歳以下の人口の推移(WHO統計)

	デンマーク	日本
2010年	18%	13%
2015年	18%	13%

60歳以上の人口の推移(WHO統計)

	デンマーク	日本
2010年	23%	29%
2015年	24%	32%

★ロスキレ市の人口構成について

現在のロスキレ市の人口は、約84,000人(2013年)です。私が最初に訪れた頃の人口は約53,000人(2001年)だったので、この15年間で約11,000人増えたこととなります。高齢化率は、ロスキレ市は18%、日本は25.1%でした。

ちなみに、日本の高齢化率が18%だったのは2000年頃であり、今から15年前の介護保険制度が施行された頃にさかのぼります。そのころの日本と今のデンマークの高齢化率が同様だという視点で研修を進めたところ、いろいろ考えることが多くありました。

★幸福度調査で世界一

今回の研修では、週末の土曜日にデンマークに到着したため、日曜日の朝早くから、夏代さんにレクチャーをお願いすることとなり、まず心から感謝しました。

はじめに話がありましたが、デンマークの象徴は、「幸福度調査で世界一」だと思います。2014年度、デンマークの幸福度調査はOECD加盟国36カ国中第1位、2015年3月に実施された156カ国を対象とした調査でも、65~74歳の満足度が第1位



だったそうです。(コロンビア大学地球研究所調査)

★自治体の役割

自治体は、98あり、児童福祉(保育)、障がい者福祉、基礎教育(小中学校)、高齢者福祉、医療的予防、トレーニング、道路、交通、環境、文化、ライフライン、職業斡旋等を行っています。

★成熟した民主主義

デンマーク社会が求めている人間像は「自分でものごとを考え、判断できる自立した人間」です。

そのビジョンを基にした成熟した民主主義が根付いている印象を受けますが、その歴史は、1849年「自由主義憲法」が発令された時期までさかのぼります。

★みんながって、みんないい

デンマークの子どもは、誕生祝に国から「民主主義」をプレゼントされ、「人が大事な資源」という方針のもとに、国の責任で一貫した教育を受けることができます。「みんながって、みんないい」というように個が尊重され、見たり、聞いたり、話したり、参加したり、自分の意思(自

己決定)で自分自身を自然に表現し合うことを大切に育まれています。

そして、18歳になると、一人前の成人とみなされます。

★男女共同参画型社会の形成

社会の中で「個の尊重」を実現させていくために、「平等」は欠かすことができません。

実際、デンマークでは、男女共同参画型社会の形成が、それを支えています。

女性就労率は75%、男性労働率は81%(16~66歳、2014年5月)週休完全二日制(週37時間労働)、有給休暇は年間5~6週間(35~42日間)、産休・育休は52週間取得することができます。

★自分たちの国は、自分たちで

さらに、デンマークのシステムには、幅広い選択肢が設けられています。幼いころから選ぶ能力が養われているため、日本のように年を取ってから、わざわざ「自立支援」とうたわなくても、自然に自立の精神が身についているように思われます。その中で、Solidarity(協同精神)、「自分たちの国は、自分たちで作る上げる」という意識も培われているようです。

★デンマークの社会保障

デンマークには、「自分の生活が自分で賄えず、また扶養者がいない場合は、公共の援助を受けることができる」という社会福祉国家の基盤があります。国民全員が健康で文化的な生活ができる社会を目指している



ため、「高福祉・高負担」の国になっています。

*義務:所得税:上限 51.5%

*付加価値税:25%

*間接税:種類別(車、タバコ、酒など)

*権利:教育・医療・社会年金・社会福祉など

★すべての人の豊かな生活のために

また、背番号制度(誕生日+番号)があり、多くの公的サービスを無償で受けることができます。

出産、保育、教育、職場、病気、障害、退職後に至るまで、すべての人の豊かな生活のために税金が使われています。

★社会保障は介護保険制度で

デンマークの社会保障は、日本のような保険制度(介護保険制度)ではなく、自治体の判定委員による判定をもとにしています。高齢者介護の責任は各地方自治体にあります。

当然、関わるスタッフは公務員か、または、行政の許可を受けた民間介護・看護サービス会社になっています。

健康な高齢者への予防訪問(75歳以上)は、半年に一度実施されています。内容は、自助への援助、身体

介護、家事援助・デイケア・デイホーム等になっています。

★介護や看護の考え方

デンマークの介護や看護の考え方として、「人生の継続性」「自己決定の尊重」「残存能力の活用」があげられます。高齢になると「適当な時期に、適当な住宅への引っ越し」をするそうですが、この自己決定に基づく無理のない形での「住み替え」がそれらを実現しやすくしていると考えられます。

★一人一室が主流

住宅対策も、重要な政策の一つです。判定を受けてから、住宅改修や住み替えの手続き等を行います。

1970年代には、プライエムが多く建設されましたが、今は「プライボリー」が主流となり、一人一室用意されます。

介護付き住宅総数は、44,500室、平均入居年齢と住居年数は84.5歳となっており、平均4年入居しています。多くは86～90歳の人が85%を占めています。

★ケアスタッフの教育システム

ケアスタッフの教育は、社会・保健ヘルパーが1年2か月（学校では720時間、実習900時間）、社会・保健アシスタントはさらに1年8か月必要となります。教育下でも給料が支給されます。

★安心を提供するシステム

人間として年を取ることへの不安は、デンマーク人も日本人も変わら

ず存在すると思いますが、デンマークでは、身体的老化に対しては「公的医療・介護・看護」、精神面では「家族との交流」、経済面では「年金」を保証し、それらを通じて安心を提供しているのだろうと感じました。

★「身の丈」を知る

2回目のデンマーク訪問で、深く考えさせられたことは、自分の「身の丈」を知った上で、自然に生き方を変化させていくことの重要性です。

日本では、長年住んだ家に固執し、身体的に住みにくくなっても、住みやすい場所に移動することを考える方はまだまだ少ないようです。口では、「子どもに迷惑をかけて申し訳ない」と言っている、親も子も離れて暮らす自信がないように思われます。本当の「自立」とは、自分の身の丈に合った場所で生活し、そこで「楽しい」「幸せ」「ありがたい」といった感情を持てることではないかと思います。国が「在宅介護」を名目に介護を家族に押し付け、当事者もそれを当たり前のこととして受け続け、国民も「介護は家族が行うもの」という意識から切り替えられないうちは、本当の「自立」には向かわないのではないかと考えます。

誰もが、家族に愛されながら、人生の最期を迎えたいと願うと思いますが、家族が介護に疲れ切った状態で、その時を迎えることができるのか疑問に思います。今一度、自分の人生について、考えていきたいと思っています。